

表

3 つの調査地における生存木とアカマツ枯木の体積(相対値)およびアカマツ枯木の割合 [%]

調査地	生存木		アカマツ 枯木	全樹木の 合計	アカマツ枯木の割合 [%] = $\left[\frac{\text{アカマツ枯木体積}}{\text{全アカマツ体積}} \right] \times 100$ [%]
	アカマツ	アカマツ 以外			
A	77	62	221	360	74.2
B	195	18	95	308	32.8
C	0	103	1326	1429	X

広島市におけるアカマツ二次林の遷移段階とマツ枯れ被害度

(https://www.jstage.jst.go.jp/article/scsai/42/1/42_KJ00001776434/pdf) により作成

(1) 表中の X に入る数値として最も適切なものを、次の①～⑤の中から 1 つ選びなさい。

- ① 0.0 ② 7.2 ③ 7.8 ④ 92.8 ⑤ 100

(2) 図 1 および表から推測できる、アカマツの枯死が起る理由を説明した次の文中の (オ) ～ (キ) に入る語句の組合せとして最も適切なものを、下の①～⑧の中から 1 つ選びなさい。

アカマツの (オ)、アカマツ以外の樹木が (カ) ため、遷移が (キ) 地域でアカマツの枯死が起こりやすい。

	オ	カ	キ
①	成長が遅く	侵入しやすい	進みやすい
②	成長が遅く	侵入しやすい	進みにくい
③	成長が遅く	侵入しにくい	進みやすい
④	成長が遅く	侵入しにくい	進みにくい
⑤	成長が遅く	侵入しやすい	進みやすい
⑥	成長が遅く	侵入しやすい	進みにくい
⑦	成長が遅く	侵入しにくい	進みやすい
⑧	成長が遅く	侵入しにくい	進みにくい



(二科目 100 分)

次の【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】は、いずれもシン・ピーク「デザイン」を教えることのできるのか——デザイン基礎教育について「デザインに哲学は必要か」の 1 節である。これを読んで後の問い(問 1～8)に答えなさい。解答番号は ① ～ ⑩。

【文章Ⅰ】

デザイン design とは一体何を指すのか。オックスフォード英語辞典によると、「デザイン」は、「表現」もしくは「指定」を意味する動詞として一五四八年にはじめて登場し、一五五八年から「目的、目標、意図」を意味する名詞として使用され、その五年後には「計画、および、頭の中で考えていることを効果的に行動に移すために構想されたアイデア」という意味を持つようになったとされている。

これによるとデザインという単語は動詞の意味と名詞の意味を持つことがわかる。動詞用法のデザインは「デザインする」こと、つまり、イメージ・物・空間・システム・サービスといったものを創案し、計画し、発展させてゆく実践的行為を意味する。これに対して名詞用法のデザインは、スケッチ、図面、モデル、プログラムといった最終成果物を指す。最近の傾向では、デザインは、デザイン生産者、デザイン制作行為(動詞のデザイン)、デザイン生産物(名詞のデザイン)、デザイン消費者から構成される一連のチャネルにおいて発生する複合的な現象だと定義される。つまり、デザイン生産者が何かをデザインし、その実践行為が人工物の形態をとり、その形態が消費者に伝達され、また消費者の反応が次のデザイン物の結果に影響を与えるという、^ア 躍動的なフィードバック過程の総体がデザインと呼ばれるのだ。

法則的な必然性や因果関係を解明する自然科学に対して、デザインは非線形的な曖昧さや多層性を抱え込んでいる。しかしデザインを構成する多層的なあり方は、みなそれぞれ異なる意味を持つにもかかわらず、それらは一括して「デザイン」と呼ばれる。そのかきりでデザイン概念はヴァイトゲンシュタインのいう家族類似性のようなものである。

^イ ポストモダンニズム以降、デザインの概念は様々に対立する概念の交差点に位置するようになっている。機能と装飾、生産と生活、産業と文化、人間と自然、機械と有機体、想像と現実、欲望と倫理、創造と破壊、科学と哲学、物質と精神、理性と感性、身体と心、自由と平等、保守と進歩、成長と分配、経済と生態系、理念と日常、伝統と革新、東洋と西洋、世界と地域といった対立概念群を基礎としてデザイン概念が成立するようになった。とりわけこの対立概念

群のうち、伝統的なものと現代のもの、世界的なものと地域的なものといった時間軸と空間軸の対立軸が私のテーマとなっている。また私的領域と公的領域、クライアントと消費者、デジタルとアナログ、政治的な正しさと資本の論理など、我々の想像が許さざるの数の多くの問題系と、相互に対立する諸理念が、デザインという概念のうちに溶け込んでいる。また人間と環境の相互作用に着目する環境心理学的なアプローチは、人間のためのデザイン、社会のためのデザイン、生態的デザイン、インターフェイスデザイン、インタラクティブデザイン、製品意味論、感性工学といったかたちをとって、デザインの領域を拡張しつつある。

社会・文化的なコンテクストのこうした変化にしたがって、デザインの概念は、成長、拡大、進化している。いまやデザインとは、イメージ、象徴、道具を用いて人工的環境を形成し、生活世界を改善する人間の行為だと定義できる。そこにおいて人間は常に変化する存在であり、無限の変化の可能性に開かれて以上、その人間が手がけるデザインもまた、固定された意味での普遍的なものではなく、持続的に変化する流動的なものとなる。だとすればデザインの成果物は、社会・文化的コンテクストにより実体化・具現化されたものであり、制作された時代と場所の制約を受けたモノないしはコトである。そうであるがゆえに我々は、その成果物を通じて、その当時の社会・文化状況を知ることができる。ジェイ・ダブリンによれば、古代の遺物を通じてその当時の時代状況を読み解くことができるように、一つのデザイン成果物は、当時の文化の「凍結された情報(frozen information)」なのである。

多様に拡散するデザインの定義のうちで、とくに私が注目するのが「道具としてのデザイン」論である。それがデザインと呼ばれるはるか以前から、精神的な安心感を得るためのイメージやモノ、より豊かな衣食住のための便利な手段とそのための空間など、様々な人工物からなる環境を人類は創造し続けてきた。こうしたデザイン以前のデザインに注目するのが「道具論」である。道具論においては、人間はそもそもはじめから道具的存在者、つまり「ホモ・フアーベル(homo faber)」として、原始時代から生存のための道具制作に動しんできたと考えられている。生活環境の形成そのものがデザインだとするならば、道具を作り、衣服をまとい、生活環境を整えるなど、原始時代から様々なかたちで我々はデザインに従事してきたのだ。

インターネット・テクノロジーやユーザー・インターフェイス技術の発達により、使用者参加型の新しい文化現象がタイトウし、いままでの生産者本位のデザイン概念がドウヨウして^Aいる。こうした状況にあつて、道具論はいまなお有効である。「道具としてのデザイン」が原始時代に存在したように、いま現在においても、インターネットをはじめとしたあらゆる場において、自分たちの生活と環境を美しくかつ新たに形成するために、一般の人々がデザインに参加している。いまや天才的なデザイナーだけでなく、すべての人々がデザインの主体になりうるのである。デザイナーは天与の才をソナ^Cえる人間だとする考え方が一方で、普通の人々の生のすべての足跡こそ、デザイン行為とその意思の痕跡だとみなされるのである。

孤高の天才が一人でデザインするという考え方に對して、近年ではマーケティングが重要視

されるようになり、チームでデザインする傾向が強まっている。スターデザイナーという神話は個人主義のイデオロギーにすぎず、実のところ集団的な産物であるものを一人の個人の才能に帰属させているにすぎないといった批判が目につくようになってきた。このように、天才肌の作家型デザイナーの終焉が喧伝^{いんげん}される時代となつてはいるが、スターデザイナーのイデオロギーはいまでも完全には消えていないし、今後も消えることもないと思われる。そうはいっても実際にはチームによるデザインが主流になりつつある。

デザインに対する視野を拡張するならば、デザイン能力とは、人間であれば誰しもがソナ^Cえるある種の先天的能力だと解釈できる。ヴィクター・パバネックの「生きのびるためのデザイン」もまたこの考え方を支持している。

ルネッサンスから今日に至る時代の変遷においてデザインの定義が、またデザイナーの概念も時代とともに変化してきた。まず、一九世紀の工業的な大量生産の時代に、製品のプロトタイプを制作する職業的なデザイナーという概念が生まれた。それに対して、社会改革者であるウィリアム・モリスは、工芸家、アバンギャルド、革命家、教育者としてのデザイナー像を提示した。また二〇世紀前半のバウハウスにおいてマイスターたちは教育者であり、同時に芸術家、技術者であったが、二〇世紀の後半になると、コンサルタント、マーケティング、企画者、経営者、戦略家、事業家、イノベーター、コーディネーター、スターといった多様なデザイナー像が生まれる。

デザイナーの新しい役割とは、人々を魅了するスタイルを提案することであり、それにより流行を導くことだと主張された時代があった。その時代には、流行のスタイルに溺れ、欲望を刺激され操作される消費者たちの群れも生まれた。マーケティングを通じて資本主義のイチョク^Dを担うようになったデザイナーたちは、その後、市場の「見えざる手」と広告代理店の「調整する手」のあいだで綱渡りを上手に演じることになる。

二一世紀においては、生産や造形の未来像を最初に着想する職能人としての空想家(visionary)、世界全体を見渡すことができる統合者、人や物事をつなぐコーディネーターへとデザイナーの役割が拡張している。かつての造形的なデザイナーが不要になったのではなく、デザイナーの役割と範囲が造形デザインを超えて広がったのである。

このようにデザイナーたちは、生産と使用、標準化と差別化、物質的記号と非物質的記号、機能と欲望、イデオロギーと美学、社会主義と資本主義といった対立軸のあいだで、その社会的役割を柔軟に変化させてつづいて、とはいえ自由と平等というイデオロギーの枠を踏み外すことなく、自らの存在理由を進化させてきている。資本主義の内部でのデザイナーの役割がこのように変化するにつれ、使用者もまたデザインに参加するようになった。そこにおいてプロシューマーという言葉が、生産者(プロデューサー)と消費者(コンシューマー)の合成語として生まれた。製品を使用する消費者が製品開発やデザイン開発に参加することで、生活者が生産の主体の地位に入り込み、従来の生産者対生活者という二元的な構図が崩れはじめる時代の到来

をこの言葉は示している。

使用者がデザインの企画や製品の生産過程に参画することにより、デザイナーの独占的地位が民主化される。情報・メディア技術が進歩し、民主化思想が文化的に拡散することにより、この傾向はこれからも持続する可能性が高い。先の道具論で述べたように、人間であれば誰しもがソナえている普遍的なデザイン能力が、デザイナーから大衆に解放されつつあるのだ。いまや市民の目がデザインを吟味し、その質的水準を決定するようになり、市民もデザイン文化の主体として参加する時代となった。

デザイナーが取り組む問題には、問題自体を明確に定義することが難しいものが多く、したがってそれに対して最終的な解決案を提示することも難しい。完全な解決案を提示できないとなれば、改善の策として、使用者とのコミュニケーションを通じてその多くが納得する案を提示するはかないだろう。このようにデザイン過程に使用者が参加することにより、使用者とデザイナーがともに同等な主体となつて共同してデザインを行う民主主義的なデザインプロセスがヨウセイされる。それを取り扱うのが、参加型デザインの方法論である。

しかしこうした方向性が強まると、デザインは企画、調査、方法論、コミュニケーション技法、感性工学、経営などといった隣接領域へと解体されることになりかねない。つまり、デザインの脱デザイン化現象が加速することになる。そうした事態を避けるため、デザイナーが自らの専門性を守りつつ、デザイン領域の拡張に対応する必要がある。そのためには、伝統的なデザイン教育は専門性をより深化する一方、また横断的で学際的なものと変わらざるをえない。

(注) * ヴィットゲンシュタイン……オーストリア生まれのイギリスの哲学者。

* ジェイ・ダブリン……オーストリア生まれのデザイナー、教育者。

* ヴィクター・パバネック……オーストリア生まれのアメリカの工業デザイナー。

* バウハウス……ドイツの造形学校。マイスターはその教員。

【文章Ⅱ】

いまやデザイン界は、デザイナーとともに、デザイン利害関係者(ステークホルダー)を含めたデザイン生態系を形成している。デザイナーたちの役割も造形デザインだけではなく、調査やプランニングなど多岐にわたる。それゆえデザイナーは、たんに造形教育だけでなく、新しく拡張されたデザイン領域において他の学問分野と連携するため、学際的教育を受けるべきである。それと同時に、デザイン分野以外の人々も、デザインに関する基礎的理解や見識を持つよう学習すべきである。こうした事情が、デザイン職業教育に対しては学際的融合教育を、デザイナー以外の人々に対しては幼い頃からのデザイン一般教育を強化すべき理由である。

いまのコンピュータ全盛の時代においては、基礎造形(伝統的なデザイン)の成果は、イメージ、言葉、数字といったコンピュータ上の表現、すなわちデータへと変換しうる。だとすれ

ば、造形を言葉に変え、言葉を数字に変え、数字をふたたび造形として表現する、その繰り返し。このトレーニングこそ、教育の実質的内容となる。その過程において学生たちは五感、とくに視覚と聴覚を研ぎ澄まし、コミュニケーション能力を向上させるだろう。その意味においても、伝統的な造形教育に加え、リテラシー教育を含む学際的教育が必要となるのである。

(本文中に一部省略・改変したところがある)

問1 二重傍線部A～Eに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は①～⑤。

A タイトウ ①

① 新しい時代のタイドウを感じる。

② 土砂がタイセキする。

③ タイフウの目に入る。

④ タイゼンジャクとしている。

⑤ タイダな生活を見直す。

B ドウヨウ ②

① ヨウシユンの光がまぶしい。

② 友とホウヨウを交わす。

③ ヨウヨウとして心が定まらない。

④ 祖父はミンヨウ歌手だ。

⑤ 母はブヨウカだ。

C ソナえる ③

① 国力のスイビを養える。

② ショウビの問題となつている。

③ 農作物のビシユウにこだわる。

④ ミサイルをツイビする。

⑤ 政府のビチクマイ制度。

D イチヨク ④

① その打球はウヨク席に吸い込まれた。

② ヨクヨウに富んだメロデー。

③ この土地はヒヨクだ。

④ ニッコウヨクを楽しむ。

⑤ 課題をヨクネンに持ち越す。

E ヨウセイ ⑤

① イッセイに起立する。

② シュッセイ兵士の日記を読む。

③ つらい過去をセイサンする。

④ 国にセイガンシヨを提出する。

⑤ 選手センセイを行う。

問2 傍線部A「躍動的なフィードバック過程の総体がデザインと呼ばれる」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は⑥。

① デザインには、モノを創案するという当初の役割だけでなく、空間やシステム、サービスなどの立案・計画についても含まれるとするのが本来の定義であるということ。

② デザインには動詞的意味としての「デザインする」こと、名詞的な意味としての最終成果物、そしてデザインを受容する消費者の二者が必要であるということ。

③ デザインを構成する要素には様々なあるが、もつとも重要な要素は、既出のデザインに対して評価や改善点を検討し軌道修正を行う作用であるということ。

④ デザインは、最近の傾向としてデザインする行為及び生産物に加えて、消費者の反応が次のデザインに影響するという一連の複合的要素の総合を指すということ。

⑤ デザインの定義は「頭の中で考えていることを効果的に行動に移すために構想されたアイデア」だが、最近では構想から成果までの全段階を指すということ。

問3 傍線部イ「ポストモダンニズム以降、デザインの概念は様々に対立する概念の交差点に位置するようになっていく」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は⑦。

① ポストモダンニズム以降、近代の超克を目指して多文化を受け入れようとする意識から東洋と西洋、伝統と革新、経済と生態系などの対立する問題を解決しようとする動きが盛んになり、二項対立的な位置づけでデザインが考慮され始めたということ。

② ポストモダンニズム以降、インターネットをはじめとする技術革新により、人間のためのデザインに限らず、インターフェイスデザイン、インタラクティブデザイン、感性工学など、デザインの領域も急激に拡張されつつあるということ。

③ ポストモダンニズム以降、社会的・文化的なコンテクストは常に変動し続けているため、社会的・文化的コンテクストによって実体化・具現化されるデザインもまた、普遍性を志向するものから流動的なものになってきているということ。

④ ポストモダンニズム以降、近代の価値観への反発から、人間と自然、世界と地域、科学と哲学などのような対立概念群を基礎としてデザイン概念が成立するようになり、相互に対立する諸理念が溶け込んだデザインの概念が拡大しているということ。

⑤ ポストモダンニズム以降、スケッチ、図面などといった従来のデザインは徐々に姿を消しつつあり、いまやイメージ・象徴など形のないものからVRを用いて人工的環境を形

成するところまで進化し、デザインの概念を大きく変えたということ。

問4 傍線部ウ「一つのデザイン成果物は、当時の文化の『凍結された情報(frozen information)』なのである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は⑧。

① デザインの技術は社会・文化的コンテクストの変化にしたがって変化することから、歴史的・社会的変化を知れば、デザインの変遷も知ることができるということ。

② デザインは人工的環境を形成して生活を改善しようとする人間の営為なので、成果物には文化的な生活を実現してきた人類の叡智が凝縮されているということ。

③ 人間の生活と密接につながる道具は時代と場所の制約を受けるもので、デザインは成果物からその時代・土地における人間の文化的生活がわかるということ。

④ デザインは制作された時代と場所に紐づけられたものであるため、当時受けていた制約の程度によって、そのデザインの成果物の価値が測れるということ。

⑤ デザインは普遍的・固定的なものではなく、社会・文化的なコンテクストの中で変化するものであるため、成果物から当時の文化状況が読み解けるということ。

問5 傍線部エ「道具論はいまなお有効である」と筆者が述べる理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は⑨。

① 「道具論」では、精神的な安心感やより快適な衣食住のためのイメージなど、デザイン以前のデザインに注目するが、現代はこれまでに精神的な安心感を求める人々が増えていくという点で「道具としてのデザイン」が求められているから。

② インターネット・テクノロジーやユーザー・インターフェイス技術の発達により、天才的な一人のデザイナーの作品よりも、普通の人々による数多くのデザインの方が人目に触れる機会も増えて活用される場面が多くなっている時代だから。

③ 人間が原始時代から道具を作り、衣服をまとおうなど生活環境そのものをデザインしてきたように、職業デザイナーではない一般の人々があらゆる場において生活環境を整えるために道具としてのデザインに参加する時代だから。

④ 「道具論」においては、人間ははじめから生存のための道具づくりを行ってきたと考えられているが、大量生産が主流であった時代から各人が自分の好みに合わせたものを選ぶ時代に変わって以来、個人がデザインの主体となっているから。

⑤ デザイン以前のデザインに注目するのが「道具論」であり、使用者参加型の新しい文化現象がみられる現在では、デザイン概念そのものが、生産者主体のものから使用者主体のものへと変化しているから。

問6 傍線部オ「デザイナーの概念も時代とともに変化してきた」とあるが、次の「メモ」はこの内容を整理したものである。これについて、後の(1)・(2)に答えなさい。

【メモ】
〈デザイナーの概念の変化〉

● 一九世紀の大量生産の時代

プロトタイプを制作するデザイナー

⇔ 対立軸は **I** など

工芸家、革命家、教育者としてのデザイナー

● 二〇世紀

デザイナーの役割は流行を導くこととされた

＝マーケティングを通じて **II** となる

● 二一世紀

デザイナーの役割が、本来的な **III** である面も残

しつつ、広範囲に拡張している時代

＝人や物事をつなぐコーディネーターへ

(まとめ) デザイナーは社会的役割を変化させつつ、自らの **IV** を進化させてきている

〈社会的背景〉

X

Y

Z

二元的な構図が崩れは
じめる時代の到来

(1) 【メモ】の空欄 **I** ～ **IV** に入る語句として最も適当なものを、次の各群の ①

～ ④ のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **10** ～ **13**。

I **10** ① 生産と使用 ② 標準化と差別化

③ 保守と進歩 ④ 機能と欲望

II **11** ① 多様な役割を演じる者 ② 見えざる手

③ 人々を魅了する社会改革者 ④ 資本主義の担い手

III **12** ① 最新スタイルの提案者 ② 生産や造形の主体

③ イデオロギーと美学の調停者 ④ 職業的デザイナー

IV **13** ① パラダイム ② イデオロギー

③ レゾナデートル ④ ヒエラルキー

(2) 【メモ】の空欄 **X**・**Y**・**Z** に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の ①～⑤ のうちから一つ選びなさい。解答番号は **14**。

① **X**＝工業化社会 **Y**＝脱工業化社会 **Z**＝格差社会

② **X**＝産業社会 **Y**＝高度消費社会 **Z**＝循環型社会

③ **X**＝工業化社会 **Y**＝資本主義社会 **Z**＝低成長社会

④ **X**＝産業社会 **Y**＝消費文化社会 **Z**＝情報化社会

⑤ **X**＝伝統社会 **Y**＝大衆社会 **Z**＝多文化社会

問 7 傍線部カ「デザイナーの独占的地位が民主化される」とあるが、それはどういふことか。

その説明の組み合わせとして最も適当なものを、後の ①～⑥ のうちから一つ選びなさい。

解答番号は **15**。

ア 使用者がデザインの企画や製品の生産過程に参加し、デザイナーと同等な立場で共同してデザインを行うということ。

イ 生活者が生産の主体の立場に入り込み、生活者の求めに応じた生産が目指されるようになるということ。

ウ 有能なデザイナーだけが持つとされたデザイン能力が、情報技術の発達に伴って大衆が習得可能なものとなるということ。

エ 使用者とのコミュニケーションを通して使用者とデザイナーがともに問題の解決策を模索するということ。

オ デザインを吟味し、デザインの質的水準を見抜く日を持つ市民が、デザイン文化を率いる主体となるということ。

カ デザイン能力の高いデザイナーが、生産者と消費者の仲介役となり商品開発を合理的に進めていくということ。

① アとウ ② アとエ ③ イとエ ④ イとカ

⑤ アとイとエ ⑥ イとウとオ

問 8 傍線部キ「デザイン教育」について五人の生徒が【文章Ⅱ】の内容も参考にして話し合った。【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】の趣旨を踏まえた発言の内容として最も適当なものを、次の ①

～ ⑤ のうちから一つ選びなさい。解答番号は **16**。

① A さん：【文章Ⅰ】には、デザイン教育は「横断的で学際的なものへと変わらざるをえない」とあるけど、【文章Ⅱ】にはデザイナー以外の人々に対してもデザイン教育が必要だとある。デザイン教育は国民にとって重要な関心事なんだね。

② B さん：いや、でも【文章Ⅱ】にはデザイナー以外の人々に対しては「幼い頃からのデザイン一般教育を強化すべき」とあるよ。つまり学校教育において、図画

工作や美術の授業をもっと充実させていこうという意味だと思うよ。

③ C さん：そうかな。デザイナーが「新しく拡張されたデザイン領域」を学ぶ必要があるのと同時に、一般の人にも環境をよりよくするためのデザインに関する理

解が必要なんだよ。例えばユニバーサルデザインもそうだよ。

④ D さん：一口にデザイナーといっても、それぞれにいろいろな役割を担っているということがわかったよ。デザイナーになるためにはマルチな能力を養う必要があるんだね。

⑤ E さん：【文章Ⅱ】ではコンピュータ上の表現も含めているね。【文章Ⅰ】にはデザイ

ンの役割と範疇が広がったとあるので、デザインの定義をはっきりさせてからでない、デザイン教育の強化方針が見えてこないと思うな。

一 次の文章は、澤田瞳子『輝山』（徳間書店）の一節である。六歳で石見銀山近くの正覚寺に預けられた喜三太は、栄久として、住職の叔父とともに五年を過ごした。ある日母の満寿が迎えに来たが、銀山で働く友人の小六が重傷を負ったことで、幼い子が銀山で働かなくてもすむようにしたいと考える栄久は母の申し出を断った。これを読んで、後の問い（問1～8）に答えなさい。解答番号は⑰～⑳。

「これまでご奴と離れていらした満寿どのが、栄久に豊かな将来を願われるのは道理じや。されど父母がおらずとも、栄久はこの数年の間に時にわしうらたじろがせるほどしつかりとした小坊主と育った。ならばその成長を嘉し、好きにさせてやるこそが、年経た大人の務めなのではあるまいか」

「で、ですが。喜三太はわたくしの一人息子なのでございます」

声を震わせる満寿に、「一人息子であればこそなおじや」と叔父は畳みかけた。

「子を己の羽交いの下に抱え込もうとするは、一見、愛情と見えて、実はただの愛着じや。愛しい我が子であればこそ、親はその手を放し、世の中に歩み出させてやらねばならぬ。栄久はすでに自らの意思で、この銀山町での暮らしを選び取った。ならばそれを認めてやるこそが、母御たる満寿どのの務めであらう」

「わたくしに——わたくしに出来ることは、もはやないのですか」

叔父に問い返す声は、先ほどまでの勢いを失い、どこか途方に暮れた気配すら孕んでいた。

満寿とて、愚かではない。京からここまでの道中、息子に拒まれるやもと恐れを抱いたことは、幾度もあったはずだ。それでもなお寺を訪れ、栄久に拒絶されてもすがりつこうとしたのは、その胸裏に期待と恐れが相半ばしていればこそだったのだろう。

無言の叔父に、満寿は薄い肩が上下するほど大きな息をついた。板間にがばと両手をついたままの栄久をまっすぐ見つめ、「大きくくなったのですね」と唇を震わせた。

なにかを堪えるかのように、自らの胸を両手で押さえ、双眸を強く閉ざす。そしてやおら叔父に向き直り、「栄久をよろしく願います」と深々と頭を下げた。

「息子をここまでお育て下さったこと、まことにありがたく思っております。もはや何も出来ぬ我が身が南がゆうございますが、これからも栄久をどうぞお導き下さい」

「もちろん。出来る限りのことは、命に換えてもさせていただきます」

叔父が満寿に向かって一礼したとき、「あ、あの」と栄久が二人の間に割って入った。

「その……もし出来れば、わたくしの願いを一つだけ、叶えていただけませんか」

なに、と叔父が目丸くする。それを遮るように、「わたくしはこの五年の間、叔父さまにひとかたならぬお世話になって参りました」と栄久は言葉を続けた。

「僧侶としてのあれはもちろん、仮に還俗したとしてもひとかどの人物となるよう、読み書きに算術の基本はお教えたいただきましたし、三度の飯も一度として足りなんだことはございません」

なにを言い出すとばかり、金吾は叔父と目を見交わした。だが栄久はそれを顧みもせぬまま、「ついでにはわたくしをここまで養って下さった御礼として、銀五百匁、この寺にご寄進いただけませんでしょうか」

と、ひと息に言い放った。

「栄久、おぬし」

「馬鹿な。何を考えているんだ」

叔父と金吾の制止が鈍る。だが満寿は男二人の狼狽の理由が分からぬ様子で、「銀五百匁……その程度であれば、喜んでご寄進させていただきますが」と、きょとんと眼をしばたいた。

「元々、喜三太を京に伴うことになったならば、正覚寺には多額の寄進を心に決めていたのです。ご住持さへご迷惑でなければ、銀五百匁といわず、十貫でも二十貫でも喜んで喜捨させていただきます」

「いいえ。銀五百匁、それだけがよろしいのです。どうかそれ以上はご無用に願います」

ひと膝詰め寄りながら言葉を重ねる栄久に、満寿はいまだ顔に当惑を浮かべつつも、静かに頭を引いた。

「わかりました。その程度の銀子であれば、明日の朝一番に大森の両替商で振り出してまいりましょう。……もしや栄久どの、その銭は怪我を負った朋友のために入り用なのですか」

無言で首肯した栄久に、満寿は「そうですか」と額の刻まれた目元を和ませた。

「本当に……本当に大きくなったのですね。そんなあなたを無理に連れていくとしたわたくしが愚かでした」

「いいえ、わずかながらも母さまにお目にかかれ、嬉しゅうございました」

手をつかえる栄久に、満寿の眸がまたしても潤む。しかし満寿は袖口で素早く目元を押さえると、無言で板間から立ち上がった。敷居際で三人に向かって深々と一礼するや、そのまま小走りに境内を過ぎつてゆく。

その小さな後ろ背が石段に消えるや否や、「え——栄久ッ」という叔父の怒号が、庫裏に響き渡った。

「お、おぬしは何を考えておるのじゃ。銭をいただき、間歩を営むなぞ、僧の本分ではないとわしが申していたのを聞いておらななかッ」

「確かに聞いておりました。ですがそれは代官所から銭をいただくかどうかを悩んでおられ

ればこそでしょう。わが母は歎息さまのご意志とは関係なく、ただこの寺に銀五百匁を寄進するのです。ならばXではないでしょうか」

あつさりと言つてのけた栄久に、「なに」と歎息が鼻先を弾かれたように息を飲んだ。

なるほど喜捨とはもともと、御仕に仕える僧を通じて庶人が善行を積む行為を指し、その妨害は人々の慈悲行を阻むことにつながる。「ただかれればいいのです」と、栄久はにっこり笑った。

「わたくしがこの寺に入つて以来、歎息さまはわたくしに飯を食わせ、学問や行儀をお授けくださいました。いわば母からの寄進は、その謝礼。その一事だけでも、受け取らぬ理由はありますまい」

「さ、されど。ならばいったい誰が、その錢で求めた間歩の山師になるのじゃ。わしが申すのも妙な話じゃが、人は財を前にすれば変わるもの。ましてやこの先、五年十年と間歩を任せるとなると、よほど信の置ける者でなくてはならぬぞ」

確かに間歩からの収入が銀山町の子供たちの手に渡るとなれば、その管理はいやが上にも慎重を期さねばなるまい。

歎息の問いに、栄久は確かに、と考え込む面構えになった。だがやがて、はたと顔を上げ、「いつそそれであれば」と己の膝を叩いた。

「わたくしが選俗して、山師になります。ならば、歎息さまも安心して間歩を任せてくださいますよう？」

「馬鹿をぬかせッ。わしは山師にするために、これまでおぬしの面倒を見てきたわけではないぞ」

読経で鍛えられた歎息の声は、その気になれば障子紙を震わすほどに大きい。金吾と栄久は申し合わせたかのように、身を引いた。

とはいえ金吾は知っている。歎息がこの貧乏な正覚寺をたった一人の弟子たる栄久に託すことに、躊躇を覚えていたことを。だとすれば、この小坊主の将来が間歩の山師というのも、案外、悪くないではないか。

銀山町の山師はそのほとんどが、海千山千の男たち。そんな中に交じって、たった十一歳の栄久がやってゆけるのかと案じられるが、彼には小六という頼もしい朋友がいる。身体こそ自在にならぬとはいえ、藤蔵山と五郎左山、二つの間歩で働いてきた彼の助言があれば、案外どうにかなるのではなからうか。

(それに町内の奴らも、面白がつて手助けをするだろうしな――)

「だいたいおぬしがおらねば、この寺に暮らすのはわし一人になってしまうではないか。それが長年の師僧に対する、おぬしの礼儀か」

「いえいえ、ご心配なく。わたくしの銀山町の住まいは、いついかなる時もこの正覚寺しかありません。仮に還俗をしたとて、常の寝起きはここでさせていただきます。境内の掃除も関

仰の水汲みも、これまで通りわたくしが務めましょう」

「ふん、戯言も休み休み言え」

吐き捨てる歎息にはお構いなしに、栄久はひよいと土間に飛び下りた。竈にかけっぱなしだった粥の鍋の蓋を取り、ああと肩を落とした。

「うっかり火から下ろすのを忘れていたせいで、すっかり粥が煮詰まってしまいました。ところどころ焦げている気もしますが、歎息さま、今日はこれで勘弁してください」

言うが早いか箱膳を取り出して夕餉の支度を始める栄久に、「こら、待て。話はまだ終わっておらんぞ」と歎息が眉を吊り上げる。

はいはい、とそれを受け流しながら、手早く糠床から漬物を取り出す小坊主の明るい横顔に、金吾はふと「小野篁歌字尽」の一節を思い出していた。

――ひはときに 人はさむらい やまいはじ やまはそばだつ たたずむはまつ 偏や旁が同じ漢字を連ね、それらを記憶しやすいよう歌の形にまとめているだけなのだから、その和歌に確固たる意味がないことは承知している。だが今の金吾には不思議にそれが、栄久の――いや、この町の少年たちについて述べている気がした。

(やまはそばだつ、たたずむはまつ、か――)

険しい仙ノ山を仰いで、生きてきた少年たち。あるいは貧乏な暮らしのただなかに、あるいは母に捨てられた寺暮らしの中にたたずんでいた彼らはいま、Y。

(本文中に一部省略・改変したところがある)

(注) *金吾……石見国大森代官所の中間。密命により江戸から大森銀山に赴いている。
*銀五百匁……銀一匁は現在の千二百五十円ほどにあたる。

*間歩……鉱山の穴。坑道。

問1 二重傍線部A～Eの本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

A たじろがせる ⑬

① あわてさせる

② 不安にさせる

③ ひるませる

④ 混乱させる

⑤ 迷わせる

B ひとかどの ⑭

① 一途な

② お人よしの

③ おおげさな

④ 思慮深い

⑤ 一人前の

C 顔を引いた [19]

① うなずいた

② 姿勢を正した

③ 気を引き締めた

④ うつむいた

⑤ 目を閉じた

D 海千山千の [20]

① あの手この手で人を巧みにだますような

② 世の中の事情に通じていて商売上手な

③ 経験が豊かで知見に富んでいるような

④ 経験の積み重ねでする賢さを身につけたような

⑤ 苦勞を重ねて世渡りの術を知っているような

E 肩を落とした [21]

① 氣力を失った

② がっかりした

③ 力が抜けた

④ 弱気になった

⑤ 期待を裏切られた

問2 傍線部ア「一人息子であればこそなおじや」と叔応は骨みかけた」とあるが、叔応は満寿にどういうことを伝えようとしているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は [22]。

① 一人しかいない跡取り息子だと思っから親元に置いておきたくなるので、寺に預けた以上、息子はすでに死んだものと考え、本人が希望するとおり修行を続けさせるべきだということ。

② 息子のための思い、裕福で安楽な暮らしをさせたいと願う気持ちは親として当然ではあるが、息子が自ら選び取った道を尊重し認めてやるのも親の取るべき態度であるということ。

③ 一人息子とはいえ、栄久はすでに僧籍に身を置き、この世に父母はいないと思ひ定めているので、その決意を愛情で鈍らせることなく、好きにさせてやるのが親の務めだということ。

④ かわいいただ一人の息子であるからこそ、自らの妄執にとらわれ、母親の懷に囲込んで庇護してやるのではなく、我が子が世間の荒波に揉まれて成長することを願うべき

だということ。

⑤ たった一人の大切な息子ならば幼いころに手放すべきではなく、親元を出されてからの年月で愛着を持ったことでの暮らしを続けたいという息子の気持ちを汲んでやるべきだということ。

問3 傍線部イ「男二人の狼狽の理由」とあるが、「男二人」はなぜ狼狽したのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は [23]。

① 栄久を引き取ることができず、悲しみに打ちひしがれている満寿に対して、これまでの養育費として金銭を要求する栄久にあきれ果てたから。

② 満寿との別れに際して述べるただ一つの願いが、銭五百匁という生々しいものだったことに、なんとはいはしたくないことをと恥じ入ったから。

③ 満寿の善意を無にしたうえに、自分にできることはないのかと悲しむ満寿に叔応への謝礼を要求するという非情な仕打ちが許せなかったから。

④ 栄久が無心した金額から、栄久が還俗して山師になるつもりだと気づき、僧を目指してきた者にあるまじき振る舞いと怒りに震えたから。

⑤ 銭五百匁と聞き、栄久が寺への寄進と称して間歩を営む金を満寿に出させるつもりだと察し、栄久を止めなければならないと思ったから。

問4 傍線部(a)「大きく変わったのですね」と、波線部(b)「本当に……本当に大きくなったのですね」との違いについての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は [24]。

① (a)では、板間に手をつく栄久を改めて眺めて、この五年での栄久の肉体的な成長を実感しているだけだが、(b)では、怪我を負った友のために金銭を工面しようと奔走している栄久に、人間としての精神的な成長を感じて感動しているという違い。

② (a)では、我が子に対してできることはなにもないと思ひ知らされ途方に暮れているが、(b)では、銀山町にとどまるという栄久の覚悟が固いとわかり、その意思を尊重して自分が身を引くことが、我が子にしてやれる唯一のことと気づいたという違い。

③ (a)では、寺に迎えに来るまでの、栄久に拒絶される恐れを抱きつつも、これから息子と一緒に暮らせるという期待に胸を躍らせていた道中を思ひ出して涙に暮れていたが、(b)では、栄久の成長を目の当たりにして心から喜びをかみしめているという違い。

④ (a)では、栄久を連れ帰ることをあきらめる決断をしなければならないことにいまだ葛藤しているが、(b)では、怪我を負った友を助けるために栄久が自分を頼ってくれていてと知ったことで心が満たされ、晴れ晴れとした気持ちになったという違い。

⑤ (a)では、叔応の言葉を受け入れなければならないと思ひながらも未練を断ち切れず、我が子にはもう幼子ではないと自分に言い聞かせようとしているが、(b)では、寺への寄進を願うのは友を助けるためだとわかり、栄久を立派になったと認めているという違い。

問 5 空欄 X に当てはまる内容として最も適当なものを、次の ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 25。

- ① その浄財を受け取らぬのもまた、御仏のご慈悲に背く行い
- ② わが母の思いを汲んでくださることが、住持としての務め
- ③ それは寂庵さまがどうこうおっしゃる筋合いではないもの
- ④ これまでわたくしをお育てくださったことへの当然の対価
- ⑤ 代官所から借り受けた銭ではなく御仏に捧げられた供物

問 6 傍線部ウ「吐き捨てる寂庵にはお構いなしに、栄久はひよいと土間に飛び下りた」とあるが、このときの寂庵と栄久の説明として最も適当なものを、次の ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 26。

- ① 寂庵は、還俗しても寺の仕事は続けるという栄久の言葉をその場のぎの冗談だろうと考えている。一方栄久は、寂庵をこの貧乏寺に一人置き去りにすることはできないと考え、師僧に対する礼儀を尽くそうと改めて思いを強くしている。
- ② 寂庵は、ずっと寺で暮らすという栄久の言葉を嬉しく思いながらも、師僧という立場上、栄久が山師になることをあつさり許可するわけにもいかない。一方栄久は、言葉とは裏腹に寂庵が承諾しているという感触を得て、気持ちが悪くなっている。
- ③ 寂庵は、せっかく育てた弟子が還俗してしまうことに反対する気持ちは変わらないが、栄久が寺で寝起きすることは構わないと考えている。一方栄久は、このまま寺に置いてもらう以上、寂庵のお世話は心を込めて続けようと決意を固めている。
- ④ 寂庵は、わずか十一歳の栄久が山師になっても、大人たちに対抗していくことは並大抵のことではないと案じている。一方栄久は、小六という頼もしい友や町内の人々の協力があれば難しいことではないと樂觀視し、日常生活に戻っている。
- ⑤ 寂庵は、山師にするために栄久を育てたわけではないと、怒りを抑えきれずに栄久を罵倒している。一方栄久は、この話を早々に切り上げ、機嫌の悪い寂庵をなだめるために、さつさと夕餉の支度を始めてしまおうと急いでいる。

問 7 傍線部エ「『小野篁歌字尽』について、Tさんは、調べた内容を『フート』にまとめた。次に示すのは、この『フート』をもとに五人の高校生が話し合っている様子である。この内容を踏まえたうえで、本文中の空欄 Y に当てはまる内容として最も適当なものを、後の ①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 27。

【フート】

『小野篁歌字尽』…平安時代の公卿・文人で、嵯峨天皇に仕えた小野篁が、部首の違う漢字を覚えやすく和歌にしたもの。江戸時代の手習い教科書として広く用いられていた。

例…点打てば 水はこおりよ 木はもとに 大に点ある いぬとよむなり

Aさん…なにになに？ あ、わかった！「水」に点を打てば「氷」に、「木」は「本」に、「大」は「犬」になるということだよ。なぜなぞみたい！

Bさん…へえ、昔の人はこんなふうに漢字を覚えていたんだ。遊び感覚で勉強できるね。

江戸時代の日本人の識字率の高さには、こういうものも貢献していたのかな。

Cさん…じゃあ本文に書いてあるのは、「ひはときに 人はさむらい やまいはじ」だから……、「時・侍・痔」ということだよ。旁がすべて「寺」なんだ。「やまはそばだつ」は「時」と書いて「そばだつ」と読むのかな。「まつ」は「待」だから、「イむ」で「たすむ」と読むのかな。

Dさん…ああ、なるほど。でも、それがどうして、金吾が言っている「この町の少年たち」につながるのかな。

Eさん…「仙ノ山」は、『煙山』で描かれている石見銀山がある山だよ。確固たる意味はないはずの「やまはそばだつ たたずむはまつ」に、険しい仙ノ山を仰いで生きてきた少年たちの姿を重ねている金吾の心情が読み取れるよ。

① 母親と和解できた「時」と、鉾山で働くことができなかった「時」を迎えて、二人は道をたがえようとしているのだ

② 「待てば海路の日和あり」ということわざがあるように、気長に待っていれば、人生にはいいこともあるのだ

③ 不遇な境遇に置かれ、幾多の困難にくじけそうになりながら生きていく日々を、山に優しく見守られているのだ

④ それぞれの試練の時を経て、色鮮やかな小松が天に向かって伸びる如く、新たな道を踏み出そうとしているのだ

⑤ 侍の家柄の出身ではなくとも、生まれつきの運命と対峙しながら食欲に高みを目指すそうとしているのだ

問 8 次の ①～⑤について、この文章の内容や表現の説明として適当なものには ①を、適当でないものには ②を選びなさい。解答番号は 28 ～ 33。

① やむを得ない事情があったとはいえ、かつて六歳の息子を放手するという非情を働いた満寿が栄久を迎えに来たのは、京で豊かな生活を手に入れたからだと推測できる。

② 実家の経済状況からすれば、銀五百匁という額を「その程度の銀子」と言って喜捨するに違いないという確信のもと、栄久は母親に対して寄進を依頼した。

③ 寂庵は弟子が一人しかいない小さな寺の住持ではあるが、満寿の言い分を認めつつも説き伏せる説法の様子から、世俗を超越した高德の僧であることがうかがえる。

④ 金吾は代官所の人間だが、町の人々との関わりがあり、栄久の意図を理解する様子か

らも横柄な役人というステレオタイプな人物としては描かれていない。

⑮

⑥ 叔父や母が栄久の言動に振り回されて感情をあらわにするのに比べ、年若い栄久が冷静沈着な態度を崩さないことにより、栄久の聡明さが際立っている。

⑯

⑦ 母親の迎えを断り、子供ながらに山師になるという悲壮な決意を固める様子から、五年という歳月が幼い栄久にとって過酷な日々であったことが読み取れる。

⑰

解答編

英語

I 解答

1-③ 2-① 3-① 4-② 5-① 6-③
7-② 8-④ 9-② 10-③

【解説】 1. so ~ that ... 「とても～なので…」という構文になるように

空欄を埋め、「雨がとてたくさん降ったのでサッカーの試合は中止にならざるを得なかった」という意味にする。

2. 「サウは私に、先生がテストのことについて何と言ったのか尋ねた」という意味になる。asked が過去形なので、それより前の出来事であるから過去完了形で表す。

3. 「早い飛行機に乗ることによって、お金を少し節約できる」という意味になる。by 「～によって」という意味で手段を表す。

4. 「誰が正面のドアを一日中開けたままにしたのか、誰も知らない」という意味になるので②が正解。

5. 「たとえ数学の問題が難しくても、あなたは最終的には解くだろう」という意味になる。figure out ～ 「～を解決する」という意味の熟語。目的語の代名詞 it が間に入る形になる。

6. 「私たちの先生は、発表に向けて一緒に準備をするよう私たちに提案した」という意味になる。suggest がこの意味で使われるときには、that 節の動詞に should がつくが、省略されると動詞が原形のまま残る。

7. 「ミアは映画を楽しんだが、マイクはそれはつまらないと思った」という意味になる。主語が it で時制は過去なので was + 形容詞 (boring) で②が正解である。①は bore 「退屈させる」という意味の動詞の受動態であるが、it (=映画) が主語であるので不適。

8. 「今日はこんなに気持ちのよい日だから外で座らない?」という意味である。since は理由を表す接続詞。Why don't ~? は、「～しない?」と誘うときに使う定型表現。